

【調査の概要】

1 調査の目的

基幹的農業従事者の大幅な減少が見込まれる中、農業者の生産活動を支援する農業支援サービスの活躍が期待されているところ、農業支援サービス事業体を対象に、サービスの提供やスマート農業技術の活用に対する課題や改善に向けた取組に関する考え方を把握し、農業支援サービス事業体の育成や活動の促進に向けた施策検討を行うための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の対象

2020年農林業センサスにおける農業経営体のうち、農作業受託を行う農業経営体（農業協同組合等含む。）であって、次のいずれかに該当する経営体

- (1) 農作業受託のみを行う農業経営体は、全数を調査対象。
- (2) 農業生産と農作業受託を行う農業経営体は、農作業受託料金収入規模が1,000万円以上又は農作業受託料金収入規模が300万円以上1,000万円未満かつ農産物販売金額が3,000万円以上の収入がある農業経営体について全数を調査対象。

3 調査事項（詳細は、別添「調査票」参照）

農業支援サービスの提供状況、スマート農機の提供状況、提供に関する課題、今後の提供意向等

4 調査期間

本調査は、令和6年11月上旬から令和6年11月下旬までの間に実施した。

5 調査方法

民間事業者が調査票を郵送し、調査対象が記入した調査票を郵送又はオンラインにより回収する方法により実施した。

6 集計方法

各項目とも、単純に積み上げ集計した。

7 調査対象数、有効回答数及び有効回答率

調査対象数、有効回答数及び有効回答率は次のとおりである。

なお、令和6年能登半島地震の影響により、石川県輪島市、珠洲市、穴水町、能登町に所在する農業経営体は調査対象から除いた。

区分	調査対象数	有効回答数	有効回答率
農業経営体	6,852 経営体	3,510 経営体	51.2%

注：有効回答数とは、集計に用いた調査対象者の数である。

8 地域別の区分

地域別の区分は、次のとおりである。

地域名	所属都道府県名
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
関東・東山	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野
北陸	新潟、富山、石川、福井
東海	岐阜、静岡、愛知、三重
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国・四国	鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
九州・沖縄	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

9 用語の解説

農業支援サービス

農業現場における作業代行やスマート農業技術の有効活用による生産性向上支援等、農業者に対してサービスを提供することで対価を得る業種のことをいい、データ分析やドローン散布等の作業受託、農業機械のシェアリング、農業現場への人材供給等、農業者を支援するサービスをいう。

本調査においては、サービスを（１）専門作業受注型、（２）データ分析型、（３）人材供給型、（４）機械設備供給型の４類型に分類し、その中の主要な農業支援サービスを対象とした。また、農場での営農行為に関わる「有償」のサービスを対象とし、農産物の流通・販売に係るサービス（選果、貯蔵、調製、選別、共同出荷など）や、税理士による青色申告等の会計業務、獣医師による医療行為は対象外とする。

（本調査の対象となる農業支援サービスの４類型と具体例）

（１）専門作業受注型

- ・ 耕うん、代かき、定植（播種、田植え、定植）、ドローンによる農薬散布・施肥、ドローン以外の農薬散布・施肥、収穫、その他（育苗、草刈り、剪定など）の農作業の提供
- ・ 獣医師や家畜人工授精師による人工授精等、削蹄師による削蹄、預託サービス等の提供
- ・ 企業やJA、市町村が運営するものや地域の農業者が寄合い形成するTMRセンター及びコントラクターの提供

（２）データ分析型

- ・ 家畜の生体情報の分析を行うサービスの提供
- ・ 土壌診断やドローン画像の撮影による生育診断を提供
- ・ 生育や市況などのデータに基づいて作付・栽培計画、飼養計画や出荷時期を提案するサービス（アプリ・ソフトウェアを含む）の提供
- ・ 農業機械の購入など経営面に関するサービスの提案

（３）人材供給型

- ・ 農作業を行う人材派遣サービスの提供
- ・ 酪農ヘルパーや肉牛ヘルパーの提供
- ・ スマート農業技術を使いこなす高度な知識・技術を有する人材を農業現場へ派遣するサービスの提供

（４）機械設備供給型

- ・ レンタルやシェアリングされたトラクタ等の農業機械の提供

（参考：対象とならない取組例）

- ・ 農産物の流通・販売に係るサービス（選果、貯蔵、調製、加工、共同出荷など）の提供
- ・ 税理士による青色申告等の会計業務の提供
- ・ 獣医師による医療行為の提供

10 調査における留意点

本調査は、調査対象の意識・意向を把握することを目的に実施したものであり、有効な回答を全国値として推計したものではないことから、利用に当たっては留意する必要がある。

令和6年度食料・農林水産業・農山漁村に関する意識・意向調査

農業支援サービス事業体の活動に関する意識・意向調査

調査結果は全て統計的処理をいたしますので、個人が特定されることはありません。この調査目的にのみ使用し、他の目的で使われることは一切ございません。

回答に必要な時間は10分程度です。お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、御協力くださいますようお願い致します。

調査票の記入及び提出は、インターネットでも可能です。
詳しくは、同封の「オンライン回答方法のご案内」をご覧ください。

ログインID：

パスワード：

オンライン回答URL <https://rdc.dstyleweb.com/hf34/ph8kke/>



(農業支援サービスの定義)

農業支援サービスとは、農業現場における作業代行やスマート農業技術の有効活用による生産性向上支援等、農業者に対してサービスを提供することで対価を得る業種のことをいい、データ分析やドローン散布等の作業受託、農業機械のシェアリング、農業現場への人材供給等、農業者を支援するサービスのことです。

本調査は、サービスを（１）専門作業受注型、（２）データ分析型、（３）人材供給型、（４）機械設備供給型の４類型に分類し、その中の主要な農業支援サービスを対象として意識・意向を調査するものです。また、農場での営農行為に関わる「有償」のサービスを対象とし、農産物の流通・販売に係るサービス（選果、貯蔵、調整、選別、共同出荷など）や、税理士による青色申告等の会計業務、獣医師による医療行為は対象外とします。

本調査の対象となる具体的な農業支援サービスについては、以下「本調査の対象となる農業支援サービスの４類型と具体例」及び「本調査の対象となるスマート農業技術と具体例」を参照ください。

(本調査の対象となる農業支援サービスの4類型と具体例)

(1) 専門作業受注型

- ・ 耕うん、代かき、定植（播種、田植え、定植）、ドローンによる農薬散布・施肥、ドローン以外の農薬散布・施肥、収穫、その他（育苗、草刈、剪定など）の農作業の作業の企業やJAへの委託
- ・ 不特定者に対するサービスとして作業受託をしている地域の担い手への農作業の委託（特定の知り合いだけからしか受託していない担い手への委託は除く）
- ・ 獣医師や家畜人工授精師による人工授精等、削蹄師による削蹄、預託サービス等の活用
- ・ 企業やJA、市町村が運営するものや地域の農業者が寄合い形成するTMRセンター及びコントラクターの利用

(2) データ分析型

- ・ 家畜の生体情報の分析を行うサービスの利用
- ・ 土壌診断やドローン画像の撮影による生育診断を提供するサービスの利用
- ・ 生育や市況などのデータに基づいて作付・栽培計画、飼養計画や出荷時期を提案するサービス（アプリ・ソフトウェアを含む）の利用
- ・ 農業機械の購入など経営面に関する提案を行うサービス

(3) 人材供給型

- ・ JAや人材派遣会社を介して農作業を行う人材派遣サービスの利用
- ・ 酪農ヘルパーや肉用牛ヘルパーの活用
- ・ スマート農業技術を使いこなす高度な知識・技術を有する人材を農業現場へ派遣するサービスの利用

(4) 機械設備供給型

- ・ 農業支援サービス提供事業者からレンタルやシェアリングされたトラクタ等の農業機械の利用

(参考：対象とならない取組例)

- ・ 普及指導員やJAの営農指導員による従来からの経験に基づく無償の営農指導
- ・ 農産物の流通・販売に係るサービス（選果、貯蔵、調製、加工、共同出荷など）
- ・ 税理士による青色申告等の会計業務
- ・ 仲介事業者のサービスを介さない直接のアルバイト募集・契約
- ・ 共同利用組合等による農業機械の共同利用
- ・ 獣医師による医療行為

ご記入に当たってのお願い

- 1 ご記入は、黒のボールペンまたは濃い鉛筆でお願いします。
- 2 ご回答は、質問ごとにあてはまる番号に○をつけてください。
- 3 回答する選択肢の数は（ ）内の指示に沿ってください。
- 4 質問によっては、回答していただく方が限られる場合があります。注意書き（問～で～と回答した方に）をよくお読みください。
- 5 「その他」の選択肢にあてはまる場合は、お手数ですが〔 〕内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 6 調査票表紙のQRコードより、スマートフォンやパソコンでもご回答いただけます。

次ページより回答欄となります。御協力よろしくお願いします。

<農業支援サービスの提供状況について>

問 1 有償の農業支援サービス(※)として提供している部門について、該当する選択肢のうち売上上位3位までの番号を記入してください。

(※各サービスの具体例は、2ページをご参照ください)

1 位	2 位	3 位

- | | | | |
|---|---------------|------------------|--------|
| 1 水田作 | 2 畑作 | 3 露地野菜 | 4 施設野菜 |
| 5 果樹 | 6 その他作物(花きなど) | | |
| 7 酪農 | 8 肉用牛 | 9 その他畜産(養豚、養鶏など) | |
| 10 有償の農業支援サービスは提供していない又は本調査の調査対象とならない農業支援サービス(※)は提供している | | | |

(※本調査の調査対象とならない農業支援サービスは、2ページをご参照ください)

問 1 で「10」を選択された方は、以上で調査は終了となります。
御協力ありがとうございました。

問 2 問 1 で「1」～「9」と回答した方にお聞きします。

提供している有償の農業支援サービスについて、提供範囲はどのような規模ですか。

- | |
|--------------------|
| 1 全国 |
| 2 地域単位(例:東北地域、九州等) |
| 3 都道府県 |
| 4 市町村 |
| 5 その他(具体的に記入) |

[

]

問3 問1で「1」～「9」と回答した方にお聞きします。

単位と料金（単価）の設定はどうしていますか。

該当する英字・番号を以下の表に記載して下さい。

単位

a /10a

b /m²

c /kg

d /日

e /月

f /時間

g その他（具体的に記入）

[

料金（単価）

① 2,000 円未満

② 2,000 ～ 4,000 円未満

③ 4,000 ～ 6,000 円未満

④ 6,000 ～ 8,000 円未満

⑤ 8,000 ～ 10,000 円未満

⑥ 10,000 ～ 12,000 円未満

⑦ 12,000 ～ 14,000 円未満

⑧ 14,000 ～ 16,000 円未満

⑨ 16,000 ～ 18,000 円未満

⑩ 18,000 ～ 20,000 円未満

⑪ 20,000 円以上

]

	農業支援サービスの内容											
	専門作業受注型							データ分析型		人材供給型		機械設備供給型
	草刈り	耕うん、代かき	定植（播種、田植え、定植）	（注）ドローンによる農薬散布・施肥	（注）ドローン以外の農薬散布・施肥	収穫	その他（育苗、剪定など）	生育の分析・コンサルティング	経営の分析・コンサルティング	年間を通しての人材派遣	臨時的な人材派遣	農業機械のレンタル・サブスク・シェアリング
単位 a ～ g より選択												
料金(単価) ①～⑪ より選択												

（注）「ドローン」には、マルチコプターのみを含み、「ドローン以外」には、無人ヘリ等のマルチコプター以外の無人航空機や動力散布機を含みます。

その他（育苗、剪定など）と回答した方は、以下にサービスの内容を具体的に記入してください。

[

]

問4 問1で「1」～「9」と回答した方にお聞きします。

提供している有償の農業支援サービスの料金（単価）で最も参考にしたものはいずれですか。（○は1つ）

- 1 地域における慣例的な料金価格
- 2 同業他社の料金価格
- 3 独自に設定（具体的に記入）

問5 問1で「1」～「9」と回答した方にお聞きします。

提供している有償の農業支援サービスの料金（単価）について、自身の経営上持続的な経営ができる価格設定ができていると考えていますか。（○は1つ）

- 1 持続的な経営ができる価格設定ができている（問7へ）
- 2 持続的な経営ができる価格設定ができている（問6へ）

問6 問5で「2」と回答した方にお聞きします。

適正な価格設定ができている主な理由は何ですか。（○はいくつでも）

- 1 料金価格の設定後に値上げする必要があるが生じたが、農業者から値上げに対する理解が得られないから
- 2 農家の支払い可能額を十分に把握できないから
- 3 地域における慣例的な料金価格以上の価格を設定しにくいから
- 4 同業他社の価格を把握できないから
- 5 自身の経営におけるサービスの提供コストを正確に把握できていないから
- 6 その他（具体的に記入）

問7 問1で「1」～「9」と回答した方にお聞きします。

兼業として行っているものについて、該当する選択肢のうち売上上位3位までの番号を記入してください。

1位	2位	3位

1 兼業はない（問9へ）

2 農業

3 林業

4 水産業

5 製造業

6 情報通信業

7 卸売業、小売業

8 金融業、保険業

9 不動産業、物品賃貸業

10 学術研究、専門・技術サービス業

11 宿泊業、飲食サービス業

12 生活関連サービス業、娯楽業

13 教育、学習支援業

14 医療、福祉

15 複合サービス業

16 その他（具体的に記入）

（問8へ）

問8 問7で1以外を回答した方にお聞きします。

農業支援サービスの売上は、経営全体の売上に対して、どの程度を占めていますか。(○は1つ)

- 1 25%未満
- 2 25%～50%未満
- 3 50%～75%未満
- 4 75%以上

問9 問1で「1」～「9」と回答した方にお聞きします。

農業支援サービスを実施する上で、価格設定以外で抱えている課題は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 サービス需要の季節差が大きく、年間を通した業務量の平準化が難しい
- 2 サービス提供のための人員が不足している
- 3 専門的な知識や技能を持つ人材が確保できない
- 4 サービスの認知度が低い
- 5 農業者からサービス利用に対する理解が得られない
- 6 自治体・JA等と連携したいがきっかけが作れない
- 7 機器導入のための資金が確保できない
- 8 研究開発への支援制度や技術開発のための資金が確保できない
- 9 課題はない
- 10 その他（具体的に記入）

問 10 問 1 で「1」～「9」と回答した方にお聞きします。

実施している農業支援サービスについて、農業者にどのように周知活動を行っていますか。(○はいくつでも)

- 1 新聞
- 2 雑誌
- 3 ホームページ
- 4 SNS (Facebook、X(旧 Twitter)、Instagram 等) (具体的に記入)
[]
- 5 研修会・勉強会 (具体的に記入)
[]
- 6 シンポジウムやフォーラムなどのイベント (具体的に記入)
[]
- 7 都道府県、市町村の職員を通じて
- 8 JA の職員を通じて
- 9 農業者を通じて
- 10 資材店やメーカーを通じて
- 11 その他 (具体的に記入)
[]

問 11 問 1 で「2 畑作」、「3 露地野菜」又は「4 施設野菜」を選択しなかった方にお聞きします。

主に野菜又は果樹へのサービス提供を行っていない理由は何ですか。

(○はいくつでも)

- 1 サービス提供範囲に野菜・果樹作を行っている農家がない
- 2 サービス提供のための人員が不足している
- 3 専門的な知識や技能を持つ人材が確保できない
- 4 サービスの認知度が低い
- 5 農業者からサービス利用の需要がない
- 6 提供コストに対して十分な利益が得られない
- 7 機器導入のための資金が確保できない
- 8 野菜や果樹に使用できる農機を保有していない
- 9 研究開発への支援制度や技術開発のための資金が確保できない
- 10 その他（具体的に記入）

[

]

問 12 問 1 で「1」～「9」と回答した方にお聞きします。

以下の機械等のうち、有償の農業支援サービスで利用されている機械等をすべて選んでください。(○はいくつでも)

☆が付いた機械はスマート農業機械に該当します。☆が付いたスマート農業機械を選んだ方は問 13 からご回答ください。また、☆が付いた機械を選ばなかった方は問 17 からご回答ください。

- | | |
|----|---------------------------------------|
| 1 | ☆ドローン |
| 2 | ☆無人ヘリコプター |
| 3 | ☆自動走行又は直線アシスト機能付きトラクタ |
| 4 | トラクタ（3 以外のもの） |
| 5 | ☆自動走行又は直線アシスト機能付き田植機 |
| 6 | ☆可変施肥田植機 |
| 7 | 田植機（5、6 以外のもの） |
| 8 | ☆全自動移植機又は直進アシスト機能付き移植機 |
| 9 | 移植機（8 以外のもの） |
| 10 | ☆自動走行又は直進アシスト機能付き収穫機 |
| 11 | ☆食味計付き収穫機（自動走行又は直進アシスト機能なし） |
| 12 | ☆野菜、果樹等の自動収穫ロボット |
| 13 | 収穫機（10、11 及び 12 以外のもの） |
| 14 | ☆汎用小型ロボット（作業者に追従し収穫物の運搬等の負担を軽減できるもの等） |
| 15 | ☆可変機能付施肥機 |
| 16 | 施肥機（自走式など 15 以外のもの） |
| 17 | ☆自律走行型農薬散布機 |
| 18 | 農薬散布機（自走式など 17 以外のもの） |
| 19 | ☆リモコン又は自動草刈機 |
| 20 | 草刈機（19 以外のもの） |
| 21 | 機械等を使用していない |
| 22 | その他（具体的に記入） |
| | [] |

問 13 問 12 で☆が付いた機械を選んだ方にお聞きします。

各スマート農機の保有台数と 1 年間でのサービス提供面積はどれぐらいですか。

該当する英字・番号を以下の表に記載してください。

台数

- a 1 台
- b 2 ～ 3 台
- c 4 ～ 5 台
- d 6 ～ 9 台
- e 10 ～ 19 台
- f 20 ～ 29 台
- g 30 台以上

提供面積

- ① 10ha 未満
- ② 10 ～ 50ha 未満
- ③ 50 ～ 100ha 未満
- ④ 100 ～ 300ha 未満
- ⑤ 300ha ～ 1,000ha 未満
- ⑥ 1,000ha 以上

	スマート農機の種類															
	ドローン	無人ヘリコプター	自動走行又は直線アシスト機能付きトラクタ	自動走行又は直線アシスト機能付き田植機	可変施肥田植機	全自動移植機又は直進アシスト機能付き移植機	自動走行又は直進アシスト機能付き収穫機	食味計付き収穫機（自動走行又は直進アシスト機能なし）	野菜、果樹等の自動収穫ロボット	汎用小型ロボット（自動追従運搬機など）	可変機能付施肥機	自律走行型農薬散布機	リモコン又は自動草刈機	その他（※具体的に記入 ）	その他（※具体的に記入 ）	その他（※具体的に記入 ）
台数 a ～ g より選択																
提供面積 ①～⑥ より選択																

問 14 問 12 で☆が付いた機械を選んだ方にお聞きします。

今後、スマート農機を増やす予定はありますか。(○は1つ)

- 1 増やす予定である
- 2 増やす予定はない

問 15 問 12 で☆が付いた機械を選んだ方にお聞きします。

スマート農機によるサービス提供を中山間地域に対して行っていますか。

(○は1つ)

- 1 スマート農機によるサービス提供を中山間地域に対して行っている
- 2 スマート農機によるサービス提供を中山間地域に対して行っていない(問16へ)

問 15 で「1」を選択された方は、以上で調査は終了となります。
御協力ありがとうございました。

問 16 問 15 で「2」と回答した方にお聞きします。

スマート農機によるサービス提供を中山間地域に対して行っていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 サービス提供範囲内に中山間地域がないため
- 2 サービス提供料金に対して収益が見合わないため
- 3 中山間地域の地形や環境条件が技術導入に適していないため
- 4 通信環境の整備が不十分のため
- 5 中山間地域の農業現場における作業やニーズから必要ないため
- 6 中山間地域で使用可能なスマート農機が不足しているため
- 7 その他(具体的に記入)

問 12 で☆が付いた機械を選んだ方は、以上で調査は終了となります。
御協力ありがとうございました。

問 17 問 12 で☆が付いた機械を選ばなかった方にお聞きします。

今後、スマート農機を利用した農業支援サービスを提供する意向はありますか。

(○は1つ)

- 1 今後提供する意向がある (問 18 へ)
- 2 今後も提供する意向はない (問 20 へ)

問 18 問 17 で「1」と回答した方にお聞きします。

「1」と回答した方で、今後スマート農機によるサービス提供を行いたい理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 規模拡大を行うため
- 2 スマート農機の導入により人員不足を解消したいため
- 3 サービス提供コストを下げるができるため
- 4 サービス提供の効率化を行うことができるため
- 5 データの分析と活用が可能になるため
- 6 リアルタイムでの情報提供とサービス改善が可能になるため
- 7 新しい市場や農業者にアプローチできるため
- 8 操作や管理の簡便化が見込めるため
- 9 その他 (具体的に記入)

[

]

問 19 問 17 で「1」と回答した方にお聞きします。

サービスとして提供したいスマート農機をすべて選んでください。

(○はいくつでも)

- | | |
|----|--------------------------------------|
| 1 | ドローン |
| 2 | 無人ヘリコプター |
| 3 | 自動走行又は直線アシスト機能付きトラクタ |
| 4 | 自動走行又は直線アシスト機能付き田植機 |
| 5 | 可変施肥田植機 |
| 6 | 全自動移植機又は直進アシスト機能付き移植機 |
| 7 | 自動走行又は直進アシスト機能付き収穫機 |
| 8 | 食味計付き収穫機（自動走行又は直進アシスト機能なし） |
| 9 | 野菜、果樹等の自動収穫ロボット |
| 10 | 汎用小型ロボット（作業者に追従し収穫物の運搬等の負担を軽減できるもの等） |
| 11 | 可変機能付施肥機 |
| 12 | 自律走行型農薬散布機 |
| 13 | リモコン又は自動草刈機 |
| 14 | その他（具体的に記入）
[] |

問 17 で「1」を選択された方は、以上で調査は終了となります。

御協力ありがとうございました。

問 20 問 17 で「2 今後も提供する意向はない」と回答した方にお聞きします。

今後もスマート農機による有償の農業支援サービスを提供しない主な理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 価格が高いから
- 2 導入する必要性を感じないから
- 3 提供先の営農法に合わず、現場への導入が困難であるから
- 4 専門的な知識を持つ人材が確保できないから
- 5 スマート農機に対する理解や教育が不十分であるから
- 6 現在のサービス内容で十分な効果が得られていると考えているから
- 7 規制のハードルがあるから
- 8 その他（具体的に記入）

[

]

調査は以上となります。

御協力いただき、誠にありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）にて

11月29日（金）までにご投函くださいますようお願い致します。

※すでにパソコン・スマートフォン・タブレット等を利用し、インターネット回答をされている方は、この調査票へのご記入や投函は不要です。